

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091100067		
法人名	株式会社ライフエイドジャパン		
事業所名	グループホームライフエイド柏原ミルテ		
所在地	福岡市南区柏原1-2-4 (電話) 092-567-6310		
自己評価作成日	令和 4 年 9 月 12 日	評価結果確定日	令和 4 年 11 月 28 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・アットホームな雰囲気、スタッフは入居者やご家族と信頼関係を築けるように心がけています。
・医療と連携を図り入居者やご家族の意思を尊重し、最期まで支援していきます。
・今年も特にコロナ感染にて面会禁止と三密を守り、安全に過ごせる様支援していきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 9 月 28 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームは5階建ての1階にあり、周辺には小中学校や交番、公民館等の公共施設がある。コロナ禍のため、面会や地域との関わり等の制限がある中、日課活動を工夫して取り組んでいる。また、年2回、家族会を開催し、アンケート調査を実施するほか、運営推進会議で出された要望等について話し合い、信頼関係の構築に努めている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を共有できるようにチェック表を使用し、毎日確認できるようにして実践に繋げている。	職員は出勤時に事業所理念が記載されているチェック表を確認している。また、月1回のミーティングにおいて、運営の方向性や実践状況について話し合い、理念の共有に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ前は秋祭りや餅つきなど地域と交流をしていたが、面会なども制限がかかっている為、なかなか地域との交流も出ていない。	コロナ禍前は利用者の知り合い等との面会を行っていたが、現在は面会を中止とし、電話支援を主体としている。地域活動への参加や事業所の活動に対する地域住民の参加は中止としているが、今後、地域の感染状況等を見ながら徐々に活動を再開する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会を実施しており、ミーティングで内容をスタッフ間で共有している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービス内容や状況の報告、テーマをもって意見交換を行っている。	運営推進会議の構成員は利用者家族、行政職員、地域住民代表としており、2ヶ月に1回開催している。会議では、事業所の現状報告、事故・インシデント報告、行事予定・報告等を行っている。参加者からは積極的に感染対策や事故対策等について意見が出され、サービス向上に繋がられるよう話し合われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月に1回、運営推進会議に参加して頂き、施設の現状報告を行っている。また、包括からは地域の情報を受けている。中止になる時は電話で報告し、情報を受けている。	日頃から行政へ運営に対する報告・連絡・相談を電話等で行い、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。また、入居相談を受けたり、運営推進会議の運営方法のアドバイスを受ける等、連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り身体拘束はしていないが、建物の構造上やむを得ないので施錠をしている。家族には入所時に説明し、同意を得ている。また、身体拘束廃止委員会を年4回開き、勉強会を開催している。	玄関は併設の有料老人ホームと共有している。周辺は交通量が多く、安全面及び不審者対策として、終日玄関を施錠しており、家族から書面で同意を得ている。職員は委員会活動や外部研修で拘束による弊害等について学んでいる。一部の居室にはセンサーが設置され、転倒を回避できるよう支援に努めている。	併設の有料老人ホームと協議しながら、少しずつでも玄関を開錠する時間をつくることのできるよう検討をお願いしたい。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法について研修会に参加し、より知識を高め、虐待防止に注意を払っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は成年後見制度の研修会に参加し、認識している。問い合わせ等ある時はパンフレットを活用し、説明することが出来る。	職員は権利擁護に関する外部研修を受講し、伝達研修をしている。事業所入口に制度に関するパンフレットを用意し、家族からの問い合わせ等にすぐに対応できるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至る前に見学等を行っている。入居希望の方、そのご家族の方に不安があれば説明を行い、理解、納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議等でコミュニケーションを図り、意見や要望の交換等を行い、その都度取り入れている。	意見箱を設置し、苦情受付に関する第三者窓口を玄関に掲示している。職員は普段から利用者とのコミュニケーションの中で意見を聴取している。家族に対しては、年2回の家族会やアンケート調査において、意見・要望を聞きとり、オンライン面会やLINEでの状態報告を行うようにする等、運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中や月一回のミーティングで意見、相談があれば聞き、その都度対応している。	職員はミーティング時に利用者のケア方法や事故防止策、認知症のケアについて話し合い、会議中は意見が言いやすい雰囲気を作るよう努めている。入浴回数や入浴スケジュールの表示方法等、職員の意見が運営に取り入れられている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員それぞれがスキルアップを目指し、研修会や勉強会への参加を勧め、やりがいのある働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢等の理由で排除せず、人柄を優先して採用している。新規職員、現職員に対しても研修参加、資格取得の機会を平等に与えている。	採用選考では、性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。法人は職員が能力を発揮できるよう職員の個々のレベルに応じた教育体制を構築し、外部研修への参加や資格取得に向けて支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外での研修会や勉強会に参加し、入居者様への尊厳、人権そしてプライバシーについて検討する機会を設けている。	職員は内部研修で高齢者の人権や虐待、感染症、差別、パワハラ、セクハラ等について学び、人権を尊重した支援に努めている。また、単なる人権学習だけではなく、職員の精神面にも注視し、日頃のケア方法に差別はないか、ストレスを抱え仕事に影響していないか、利用者の人権が守られる支援とは何か等、職員間で話し合っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部の研修会等に参加してもらい、スキルアップを図っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ渦という事もあり、交流の場を設ける事が出来ていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前から本人が感じている思いや不安をしっかりと聞き取っており、サービス変更や提案についても十分な説明を得て支援に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前にご家族から困っている事、不安、希望などを寄り添いながら話を聴き、安心できる環境作りを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、ご家族様の現状を把握し、他職種と連携を図り、必要とされている支援を提供できるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯等、入居者様との生活の中で出来る限り共同で作業を行い、暮らしを共にする者同士関係を築き、安心して生活できる様支援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オンラインでの面会を行っており、面会に制限がかかっても家族との関係が途切れないように支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり、御家族以外では対面の面会が出来ないので、電話やオンラインでの面会に対応している。	利用者の生活歴はアセスメント表、入所後に得られた情報は連絡ノートに記載し、職員間で共有している。年賀状のやり取りや神社への参拝、牧師さんとのリモート電話等、馴染みの関係性が保てるよう支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感染対策に気を付け、入居者同士顔が見える様に席を調整し、笑顔で過ごせるように声掛け、見守りを行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	再入居の相談や関連施設への入居等は面会に行かせて頂いたりして対応している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	可能な限り意向に添えるように日頃から希望や意見を聴く様にして自分らしく生活できるようにしている。	職員は日々の関わりの中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。意向把握が困難な利用者には、家族等から情報を得るようにし、職員間で共有して支援している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント作成、これまでのサービス利用時の情報収集を行っている。入居者様やご家族との会話の中で聞き取りも行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の体調を第一に考え、現状維持、健康管理が出来るように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	電話や面会時にご本人、ご家族の意向を聞いてスタッフ間でカンファレンスを行い、課題設定や目標を立てている。	介護計画は、本人や家族の希望をもとに関係者間で作成されている。定期的にモニタリングや計画の見直し等がなされ、職員間で共有されている。介護計画作成後は、利用者・家族に説明し、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあればその場のスタッフで話し合い、記録、共有し、再度ミーティングで検討し、実践、計画等に反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度状況に対応できるように職員やご家族と連携を図りながら柔軟な支援が行えるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を開き、町内会、民生委員、地域包括支援線センターの方々に参加して頂いている。地域資源の把握、入居者に対してどのような支援が出来るか検討している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様はかかりつけ医が協力病院の為、緊急時の受診や受診に行けない時は必要に応じて往診を受けている。複数の病院を受診していても情報を電話連絡などで共有している。	本人や家族の希望に添ったかかりつけ医への受診支援が行われている。訪問診療や他科受診支援も行われ、通院介助や情報伝達方法について家族と話し合い、合意している。看護師や理学療法士による健康管理やリハビリ、緊急時の対応等、多面的な医療支援が行われている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報や気付いたことは看護職員へ逐一報告、相談が来ている。その後も利用者に対して受診や適切な看護が提供できている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院との連携を図り、入退院時の情報交換を行っている。入院中もご家族と相談し、ご本人がストレスとならないようにケアや退院について情報を共有している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族に対し入居時に急変時や状況変化についての説明を実施し、意向の確認を行っている。看取りケアには終末期プランの作成と内容についての説明を行い、家族に寄り添った支援を実践している。	重度化や終末期対応については、入居時に指針やマニュアル等をもとに利用者・家族へ説明し、同意を得ている。心身状況に応じて、早い段階から利用者・家族への説明を含め、支援方針の共有やチーム対応が行われている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生防止の勉強会やAEDの使用方法、心肺蘇生の勉強会や研修会を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、施設内で防災訓練、年3回の勉強会を行い、非常時に慌てずに避難誘導できるようにしている。	併設の介護施設と連携して防災訓練や昼夜を想定した避難訓練を定期的を実施している。非常用食品や備品、非常用電源等を確保し、ハザードマップがフロアに掲示されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重して言動等を否定せず、安心して生活できるように声掛けをしている。	日々の入浴や排泄、入室等において、プライバシーの確保に留意した支援を行っている。マニュアルの整備や接遇、人権研修、勉強会等、積極的に取り組んでいる。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を望んでいるのか、何を言いたいのか見落とさない様声掛けや日々の表情の観察を行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、業務優先にならない様にしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヵ月に1回の訪問理容を行い、散髪やカラーなどを希望者に行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの希望や入居者に合った食事形態を提供している。また、出来る方には台拭き等出来ることを一緒に行っている。	食事の提供は、併設の介護施設と一体的な運用がなされていて、栄養バランスに配慮されている。職員は、利用者一人ひとりの嗜好を把握し、献立に取り入れながら、食事が楽しみなものになるよう取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの生活習慣や心身の状態に応じて気持ちよく眠れるよう支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促しているが、拒否が強い方は様子を見て数回声掛けして対応している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導や声掛けを行っている。失禁が多い利用者様には何が原因か皆で考え、オムツのサイズを変更したり工夫して対応している。	トイレは十分なスペースが確保されている。職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、適宜、声かけや誘導等がなされている。また、頻尿や便秘、失禁等に対しても、自立に向けた排泄支援が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方にはミニトレーナーや歩行練習などを実施して腸の働きを促し、なるべく下剤を使わないようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	職員の配置の都合上、入浴日を決めているが、なるべく楽しんでもらうように入浴剤など使用し、季節や雰囲気を感じられるようにしている。	入浴は週2～3回としているが、入浴日以外でも入浴可能である。入浴を望まない利用者に対しては、言葉かけや対応の工夫等によって、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。脱衣所の換気や保温、入浴後の保湿ケア等の支援が行われている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりに合わせて希望のある方は臥床して頂いているが、あまり寝すぎないように気をつけながら行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服薬している薬の目的、効果、用量について把握している。受診時状況を報告し、その時の状態にあわせ用量や内服の変更があれば、その都度スタッフにも伝達し、服薬支援をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナウイルス感染対策に気をつけながら、毎日1時間程度レクリエーションに参加して頂き、楽しく過ごして頂けるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として外出支援を計画しているが、コロナウイルス感染対策で近くの裏庭や玄関に花を見に行ったりして季節を感じる様支援している。	コロナ禍のため、天気や利用者の体調や希望に応じて、ホーム周辺の散歩を行っている。コロナ禍前はドライブや買い物等の外出を行っていた。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症があり、買い物や金銭管理の出来る方がいない。ご本人の希望がある場合はお金を持たせている。現在はコロナウイルス感染対策もあり、外出が出来ないのでホームで管理している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く入居者はいないが、電話やオンラインでの面会を希望者に行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着いて生活できる様に音の大きさや明るさ、空調、障害物に配慮している。毎月季節に合った掲示物を飾り、季節を感じてもらっている。	共用空間はアットホームで居心地の良い雰囲気作りの工夫がある。また、利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を取り入れる等、配慮されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士席を工夫して話しやすいように配慮している。また、一人で過ごしたいときは居室など案内を行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで家庭で使っていた馴染みの物を置いて居心地よく過ごしてもらおうようにしている。また、レクリエーションで作成した絵や書道などを飾って、好みの空間になる様に工夫している。	安心、安全面への配慮がなされ、清潔な居室環境となっている。各部屋には使い慣れた家具や思い出の写真等が持ち込まれ、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるような部屋作りとなっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は手すり等を設置している。また、足腰の悪い方は席と居室が近くなる様に調整し、自立した生活を送れるように工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
			○	④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		